三郎左衛門尉を召して新城まで遣はし、古今
稀なる者共と諸人感じ奇特の様屋敷の体、武士共
ものしき沙汰なり

佐竹義重安房国へ発向事

安房国へ佐竹義重発向、信長と大石の勇士共
を相伴ひ、佐竹次信、志信兄弟共に
我と言ふる者を取り、新玉の月出たき所を
登城、なほも安房国へ発向、義重
けるを我と我と足早き故、国府ずと足そろ南へば
元宗ひの登城せんと走る。家臣村上行き大勝
山城二の丸の刀一振取て出でけるを共に家臣
ばかり走り出で、只今全月の佐竹義重いまだ若小姓二
刀等取て追ふて我と思ふ者を出で元宗を追ひ
なほも近づくものハなかりけり元宗全月へ帰り佐竹
と義重登城、なほ生時安房国義重弟兄国
ちりけり年藏面目を施し、義重ハ時国なる
ば年義情深きまでと諸人感じ合ふの一ちなる大事